

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	工業科教育法（A Method of Industrial Education）		
ナンバリングコード	K20202	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 標準レベル
単位数	4	配当学年 / 開講期	3 年 / 通年
必修・選択区分	教職関係科目（必修）：高等学校教諭一種免許状（工業） ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	K001901	クラス名	-
担当教員名	原田 敦史		
履修上の注意、履修条件	教科書2冊は、毎回持参してください。 課題は教育実習等で使用することがあるため、大切に保管してください。		
教科書	工業科教育法の研究（実教出版），高等学校学習指導要領解説 工業編 文部科学省		
参考文献及び指定図書			
関連科目	教職概論、職業指導、教育方法技術論		

○基本情報		
授業の目的	高等学校教員免許「工業」を取得するための科目になります。高等学校学習指導要領「工業」編に従い、「工業」科目の意義、指導内容、内容の取り扱い、教材選定、指導法を身に付けることを目的とします。	
授業の概要	工業教育の内容や歴史などを解説した後、工業教育の学習指導要領、工業の指導法等を学び、模擬授業を実施します。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「プレゼンテーション」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	原田敦史 本授業の模擬講義等の指導に関して、工業高等専門学校に7年間勤務し、専門科目等の指導を行った。	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】	工業教育の本質・目的に関心が持てる	15点	5点	
【知識・理解】	工業教育の歴史や手法を理解できる	15点	5点	
【技能・表現・コミュニケーション】	工業教育の方法を習得できる。	10点	10点	
【思考・判断・創造】	工業教育に関して、授業を行うことができる。		10点	30点

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 ＜成績に関して＞ 「定期試験40%＋レポート40%＋模擬授業30%」で評価します。 課題のフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
・講義内容に関する質問はオフィスアワーの時間を利用して相談すること。 ・授業の資料を掲載するホームページのアドレスを授業1回目に紹介するので活用すること。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名 担当教員	工業科教育法（A Method of Industrial Education） 原田 敦史	授業コード	K001901
学修内容				
1. ガイダンス 成績評価と前期試験の内容説明。後期の模擬講義説明後に工業教育の意義と役割を解説します。				
予習	シラバスを熟読すること			約2時間
復習	講義時間で終了したページまでの復習特に工業目標を課題			約2時間
2. 工業教育の意義・役割・目標・内容 ・工業教育の意義と役割，工業教育の目標，工業教科の内容，工業高校生の目指すべき人物像(テクノロジスト)について説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp9～p18まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
3. 教育関係法令 ・工業教育に関わる教育法令に関して説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp24～p31まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
4. 工業高校発展の歴史と現状【1】 ・日本の工業と工業教育の概観，日本工業教育の歴史(昭和初期まで)について説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp32～p40まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
5. 工業高校発展の歴史と現状【2】 ・日本工業教育の歴史(戦後の工業高等学校の発展・拡大)，工業高校への課題について説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp40～p47まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
6. 工業科の科目と原則履修科目【1】 ・工業の科目，工業技術基礎，課題研究について説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp40～p47まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
7. 工業科の科目と原則履修科目【2】 ・課題研究(実践型テーマの指導とノウハウの実例～)について説明を行います。				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp58～p72まで読んでおく			約2時間
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
8. 前記中間確認試験 1週目から7週目までの確認試験を行う。				
予習	1週目から7週目を復習する			約2時間
復習	試験の復習を行う。			約2時間

○授業計画	科目名	工業科教育法（A Method of Industrial Education）	授業コード	K001901
	担当教員	原田 敦史		
学修内容				
9. 工業の各分野における基礎科目 ・工業の各分野の基礎科目，実習，製図，工業情報数理について説明を行います．				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp73～p90まで読んでおく		約2時間	
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと		約2時間	
10. 実践的工業教育 ・就業体験（インターンシップ），資格取得に関して説明を行います．				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp91～p103まで読んでおく		約2時間	
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと		約2時間	
11. 教育課程の編成から単元計画まで ・教育課程の意義から教科書の選定までの説明を行います．				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp104～p119まで読んでおく		約2時間	
復習	講義内容をまとめ，課題を行うこと		約2時間	
12. 授業の設計，学習指導案，授業改善及び教育実習 ・系統的学習における授業構造，学習指導案，授業の改善，教育実習について説明を行います．				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp120～p133まで読んでおく		約2時間	
復習	学習指導案の作成を行うこと		約2時間	
13. 学習指導案の作成【1】 ・学習指導案の作成を行い，発表を行います．				
予習	学習指導案に関するプリントを配布するため，よく読んでおく		約、時間	
復習	学習指導案の作成を行うこと		約2時間	
14. 学習指導案の作成【2】 ・発表会で指摘された学習指導案を修正した上で再度発表を行う．				
予習	学習指導案に関するプリントを配布するため，よく読んでおく		約2時間	
復習	学習指導案の作成を行うこと		約2時間	
15. 教育評価 ・学習評価の意義，新しい評価の3つの観点，形成的評価・診断的評価・総括的評価，ルーブリック評価，評価・評定の実際，工業高校の教育と評価方法，評価と評定について説明します．				
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp134～p144まで読んでおく		約2時間	
復習	課題プリント		約2時間	
16. 前期期末試験 ・9週目から15週目までの定期試験を行う．				
予習	9週目から15週目を復習する			
復習	試験の復習を行う．			

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名	工業科教育法（A Method of Industrial Education）	授業コード	K001901
		担当教員	原田 敦史		
学修内容					
17. 学習と授業理論					
・教育論の歴史的展開，授業の方法，授業形態，主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)について説明します．					
予習		指定教科書「工業科教育法の研究」のp145～p168まで読んでおく			約2時間
復習		講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
18. 模擬授業【ガイダンスおよび準備】					
・学習指導案と配点票を配布したうえで、模擬授業を行います。他の受講者は生徒の立場となり批評します。					
予習		学習指導案の作成			約2時間
復習		模擬講義の反省を提出してください			約2時間
19. 模擬授業【1】					
・1人20分の模擬授業を4人行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習		模擬授業に向けた学習指導案を作成する			約2時間
復習		模擬講義の反省箇所をまとめる			約2時間
20. 模擬授業【2】					
・1人20分の模擬授業を4人行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習		模擬授業に向けた学習指導案を作成する			約2時間
復習		模擬講義の反省箇所をまとめる			約2時間
21. 模擬授業【3】					
・1人20分の模擬授業を4人行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習		模擬授業に向けた学習指導案を作成する			約2時間
復習		模擬講義の反省箇所をまとめる			約2時間
22. 模擬授業の統括					
・模擬授業の統括を行い，改善点等を考えていきます．					
予習		学習指導案の作成			約2時間
復習		模擬講義の反省を提出してください			約2時間
23. 教材と教具・情報機器の活用					
・教材と教具の活用，教具の種類，魅力ある自作教具，情報機器とその活用について説明を行います．					
予習		指定教科書「工業科教育法の研究」のp219～p231まで読んでおく			約2時間
復習		講義内容をまとめ，課題を行うこと			約2時間
24. ICT教材を用いた講義資料の作成演習					
・ICT機材を用いた講義に向けて資料の作成方法などを勉強します．					
予習		配布資料を熟読する			約2時間
復習		ICT教材を用いた資料の作成を行う			約2時間

○授業計画		科 目 名	工業科教育法（A Method of Industrial Education）	授業コード	K001901
		担当教員	原田 敦史		
学修内容					
25. 遠隔講義に向けた教材資料の作成演習					
・遠隔講義に向けて資料の作成方法などを勉強します。					
予習	配布資料を熟読する				約2時間
復習	遠隔講義の資料の作成を行う				約2時間
26. ICT教材を用いた模擬授業【1】					
・1人20分のICT教材を用いた模擬授業を行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習	模擬授業に向けた学習指導案を作成する				約2時間
復習	模擬講義の反省箇所をまとめる				約2時間
27. ICT教材を用いた模擬授業【2】					
・1人20分のICT教材を用いた模擬授業を行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習	模擬授業に向けた学習指導案を作成する				約2時間
復習	模擬講義の反省箇所をまとめる				約2時間
28. ICT教材を用いた模擬授業【3】					
・1人20分のICT教材を用いた模擬授業を行います。教師役以外の学生は、生徒役として評価を行います。					
予習	模擬授業に向けた学習指導案を作成する				約2時間
復習	模擬講義の反省箇所をまとめる				約2時間
29. 工業教育と進路指導					
学習指導案と配点票を配布したうえで、模擬授業を行います。それを加者で批評します。					
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp176～p191まで読んでおく				約2時間
復習	講義内容をまとめ、課題を行うこと				約2時間
30. 学校運営と教育向上への取り組み					
・学校運営、地域と工業高校(工業高校の発展的活動)、学校の教育力向上・活性化を目指す取り組み、PTAと諸団体、教員教育力向上を目指して、教員に必要な対応呂行くについて説明します。					
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp192～p218まで読んでおく				約2時間
復習	講義内容をまとめ、課題を行うこと				約2時間
31. 今後の工業教育					
・工業高校の現状について、新しい工業高校、今後の工業教育について説明を行います。					
予習	指定教科書「工業科教育法の研究」のp219～p231まで読んでおく				約2時間
復習	講義内容をまとめ、課題を行うこと				約2時間
32. 後期期末試験					
模擬講義の反省会					
これまでの反省をおこないます。					
予習	後期の講義内容を復習し、期末試験に望む				
復習	試験問題の復習を行う。				